ー文化の薫る活力ある地域づくりをめざしてー　財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」16 号の発行

2. 普及講座の開催

陶芸入門講座（8 回講座）
期　日／平成 24 年 5 月～12 月
会　場／勝央町公民館・工芸室
参加者／ 25 名

「からくりおもちゃをつくろう！」の様子

絵画教室（10 回講座）
期　日／平成 24 年 5 月
～平成 25 年 3 月
会　場／勝央町公民館・工芸室
参加者／ 25 名

夏休みこども体験講座「からくりおもちゃをつくろう！」
期　日／平成24 年 8 月 6 日
会　場／勝央町公民館・工芸室　参加者／ 26 名

3．事業協賛に伴うＰＲ活動　金時祭花火大会への協賛

芸術文化活動事業

「ミマサカコドモ絵画展」会場風景

1. 展覧会の実施

【主催事業】
■絵画展の開催
○公募展「第 9 回ミマサカコドモ絵画展」
会　期／平成 25 年 1 月 6 日～ 2 月 3 日
会　場／勝央美術文学館・展示室・町民ギャラリー 1・2

○gallery exhibition vol.25
「奥佳奈子 野上真理子 水島生恵 作品展」
会　期／平成 25 年 2 月 16 日
～ 3 月 17 日
会　場／勝央美術文学館
町民ギャラリー 1

「奥佳奈子 野上真理子 水島生恵作品展」会場風景

その他の事業

1．文化財資料収集保存事業
2．学術的研究及び図書の発刊事業等の事業を継続しておこなっております。

［共催事業］
■企画展の実施
≪文学≫
○小企画 29 「文豪の手紙展」
○特別展「作州のシャーロック・ホームズ 前期」
○特別展「作州のシャーロック・ホームズ 後期」
≪美術≫
○コレクション展 Vol.29
「郷土の画家ｼﾘｰｽﾞ ー夏を想うー」
○「ミマサカコドモ絵画金賞展」
○コレクション展 Vol.30
「郷土の画家ｼﾘｰｽﾞ ー石ばしるー」
○「勝央絵画教室作品展」
○「第 9 回陶芸教室の作品展」

【助成事業】
音楽活性化事業「村上敏明コンサート」
勝央金時太鼓保存会活動
勝央町文化協会活動事業

【後援事業】
平成 24 年度かつたっ子フェスティバル
第 8 回しょうおう町民音楽祭

ご寄付をありがとうございました

＜一般寄附＞　赤堀秀正 様

当財団は、皆様のご寄付により一層充実した地域芸術文化振興のための活動を実施します。

地域の文化活動を応援します！

当財団は、地域の芸術文化振興のための助成活動を実施しております。詳しい内容は、団体 HP をご覧ください。

水野恭子（1921～）

「四月風景」 2000 年／キャンバスに油彩／ 162.1×259.1 ㎝

水野恭子女史は、勝央町出身の洋画家岡山県議会議員を務めた水野君恵の長女で、津山高等女学校から 東京女子美術専門学校（現在の東京女子美術大学）を卒業後、同郷の福島金一郎、赤堀佐兵らに師事。 赤堀が所属した独立美術協会に主活動の場を置き、教師などを務めながら独立展を中心に画壇で活躍している。

編集後記

今年度 7 月、当団体は、公益財団法人に正式に認定されました。これまでに引き続き、今後ともより一層 地域の皆様の文化活動のお手伝いが出来るよう、多彩な事業を展開して参りたいと存じますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。(E.N)

公益財団法人　美作学術文化振興財団
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4　Tel. 0868-38-0270 ／ Fax. 0868-38-0260

発行日：2013 年 3 月 31 日
編集・発行：公益財団法人美作学術文化振興財団
印刷：友野印刷株式会社

公益財団法人 美作学術文化振興財団

作州路

Vol.16
2013/3

３．１１の震災から３年目を迎える今年、水野恭子作「四月風景」に描かれた三春の＜瀧桜＞が展覧会場で見事に花を咲かせています。

今年は、東北地方を襲ったあの震災から 3 年目。洋画家 水野恭子は 2000 年に福島県 三春でこの＜瀧桜＞を描きました。三春では震災にも負けず桜が咲いているそうです。水野恭子女史の 200 号の大作 2 点は、勝央美術文学館でご覧いただけます。

コナン・ドイルと阿部知二

森 本　穫（阿部知二研究会事務局長）

1．コナン・ドイルの生涯

探偵シャーロック・ホームズが活躍する数々の推理小説を書いて世界的に著名になったコナン・ドイルは、19 世紀半ばの 1859 年、英国のエディンバラに生まれた。

1886 年、医学を志してエディンバラ大学に入学。ここで、のちにシャーロック・ホームズのモデルとなるジョーゼフ・ベル博士に出会ったという。

大学卒業後、二度にわたる船医の経験を経て、1882 年、23 歳のとき個人病院を経営。翌年には初めての短編小説を発表し、1887 年には、最初のシャーロック・ホームズ物である「緋色の研究」を発表し、以後、旺盛な作家生活に入る。

1902 年には、優れた作家活動などが認められて、ナイトの爵位を得た。アーサー・コナン・ドイルと呼ばれるのは、このためである。

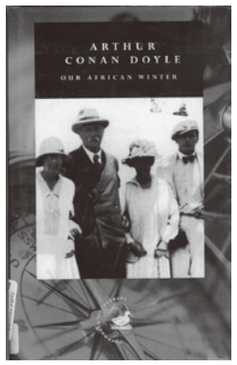
しかし 1914 年に勃発した第一次世界大戦で長男が負傷して死んだことを契機として、かねてから興味を抱いていた心霊学に没頭。

この心霊学の福音を広く人々に知らせるため、国外にも、旺盛な講演活動におもむいた。

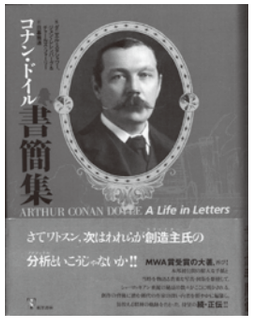
2．作州と阿部知二

のちにシャーロック・ホームズ全集を翻訳した阿部知二は、ドイルに遅れること 44 年、つまり、およそ半世紀のちの明治 36 年（1903 年）、20 世紀の初めに、岡山県勝田郡湯郷村（現、美作市中山）に生まれた。

知二の生まれた阿部家は古くからその土地に根づいた名家であり、学問に関心が深く、英文学とも縁が深かった。



1
ドイルの死の前年に刊行された「OUR AFRICAN WINTER」。知二は、この書を素材として「アフリカのドイル」を書いた。



2.
「コナン・ドイル書簡集」（日暮雅通訳）
/2012 年 1 月 31 日刊行

たとえば、知二の家の隣りにある本家からは阿部舜治（しゅんじ）という秀才が生まれ、東京高等商業に進んで、英語を得意とした。

本家に生まれて、隣村の岡村に婿として入った木村彙（しげし）の息子が、のち英文学者、ジャーナリスト、早稲田大学教授として活躍した木村毅（き）である。

少年時代の木村毅は、付近にレベルの高い英語を教える人がいなかったので、胸を病んで帰郷していた舜治のもとへ英語を学びに通った。舜治は、英語の学力が高かったばかりでなく、文学青年でもあったから、毅に、そのころ東京で愛読されていた西欧文学や日本の文学を次々に教えた。

後年、木村毅は、舜治さんから学んだ英語と文学が、自分の生涯を作ってくれたと述べている。

知二の父・良平は、津山市の西郊、日上村に生まれた人であった。当時、勝間田にあった勝南高等小学校を卒業すると、近辺の小学校に代用教員として勤め、自活した。阿部家のもりよの婿となったのは、明治 29 年のことである。

まもなく良平は刻苦して文部省検定試験（文検）に合格したから、知二の生まれた年から中学教師に転じ、鳥取県の米子、島根県の杵築（きつき）（現在の大社）、兵庫県の姫路で、優秀な博物学の教師として生涯を過ごした。

姫路中学から名古屋の八高を経て、東京帝国大学英文科に進んだ知二は、教壇に立った英国詩人ブランデンから英文学をたっぷり学んだ。

知二は大学を出た 3 年後の昭和 5 年、小説「日独対抗競技」と評論集「主知的文学論」によって、はなやかに文壇に登場したが、翌昭和 6 年（1931）年に、注目すべき小説を発表した。それが「アフリカのドイル」という短編である。

ドイルとは、もちろん、コナン・ドイルのことである。

3．「アフリカのドイル」の舞台

シャーロック・ホームズ物の大人気によって、一流の作家仲間に入り、活躍したドイルであるが、晩年には大きな人生の危機を経験した。

息子が第一次世界大戦で戦死したのである。この失意によって、そのころオリバー・ロッジによって提唱されていた心霊学のとりことなったドイルは、その熱心な宣伝家となって、各地に講演の旅をした。

ついには 1929 年、家族を連れてアフリカに行き、南アフリカのヨハネスブルグに滞在したりした。

ドイルが亡くなったのは、1930 年である。

知二が小説「アフリカのドイル」を執筆し、発表したのは、その翌年、1931 年 3 月である。つまり知二は、ドイルの死亡を遠くからの新聞で知って、この作品を書いたのだ。

4．小説「アフリカのドイル」

知二は、東大在学時代から、欧米の現代文学にも深い関心を寄せ、長編詩「大鴉（からす）」で知られるエドガー・アラン・ポーや、「白鯨」のメルヴィルなどに親しんだ。

ドイルに対しても同様の関心を示したようで、文壇に出た翌年に、早くもドイルを主人公にした「アフリカのドイル」を発表したことは、知二のドイルに寄せる関心が半端なものでなかったことを裏づける。

ドイルには、「OUR AFRICAN WINTER」（我々のアフリカの冬」というエッセイ集がある。1929 年の刊行である。そこでは、南アフリカ、ケニア、ローデシアを家族で訪問したことが詳しく報告されている。

知二は刊行と同時に、この書を取り寄せて読んだものと見える。

翌年の 1930 年に、ドイルは死んだ。

その翌年の 1931 年に、知二は、この作品を書いたのである。南アフリカのヨハネスブルグを舞台とし、ドイルの次男を中心に、行きすぎた西欧の文明の衰退と、アフリカの人々の生命力を対比して描き、現代文明の本質について、鋭い疑問を投げかけている。

コナン・ドイル略年譜

1869年　英国エディンバラに生まれる。
1876年　エディンバラ大学医学部を卒業。
1882年　ポーツマス郊外に個人病院を開く。
1883年　初めての短編小説を著名な雑誌に発表して、注目される。
1887年　最初のシャーロック・ホームズ物である「緋色の研究」を発表。
1893年　シャーロック・ホームズを「転落死」させて、いったんホームズ物を終結させる。
1902年　読者の強い希望にこたえ、「バスカヴィル家の犬」でシャーロック・ホームズを復活させる。
1918年　長男キングズリーを、第一次大戦で失う。心霊学に関する最初の著書を刊行。
1928年　ドイル一家、アフリカを訪問。
1929年　「我々のアフリカの冬」刊行。
1930年　7月7日、死去。

阿部知二略年譜

1903年（明36）
岡山県美作市に生まれる。
父・良平の転勤にともない、生後 60 日で米子に行く。
1904年（明37）
父・良平の転勤にともない、島根県杵築町に映る。
1913年（大2）
10 歳で、一家は姫路に移住し、以後、この地に定住する。
1920年（大9）
姫路中学４年終了、名古屋の八高に入学。
1924年（大13）
東京帝国大学英文科に入学。 英国詩人ブランデンより大きな影響を受ける。
1927年（昭2）
東京帝国大学卒業。卒業論文は、「詩人としてのエドガー・アラン・ポー」。
1930年（昭5）
「日独対抗競技」によって作家として認められる。評論集「主知的文学論」も刊行。
1931年（昭6）
３月、『改造』に「アフリカのドイル」を発表。
1936年（昭11）
「冬の宿」により、文壇外の広い読者を獲得する。
1942年（昭17）
１月、宣伝班員としてジャワに派遣され、「戦争のいとわしさ」を痛感する。
1945年（昭20）
終戦を岡山県津山の、父の実家で迎え、まもなく姫路に帰って、文化活動に専念する。
1948年（昭33）
『世界文学全集（別巻）シャーロック・ホームズⅠ～Ⅲ』を河出書房新社より出版。
1973年（昭48）
「捕囚」を最後の作として、4月 23 日、永眠。